

実態把握をもとに定着状況を確認しましょう②

～学力定着状況確認テストの結果よ～

今号では、2学期後半に実施した学力定着状況確認テストの自校採点結果からみえる県全体の傾向を紹介し、各学校における取組状況の確認や年度末における学力保障の取組の参考にしてください。

中学校（2年）国語の傾向

自分の考えを書くことに課題がある。

情報提供いただいた県事業校の結果を集計したものを示しています。



	問題の概要	正答率(%)		
		県全体 (自校採点)	全国 (公立)	ベンチマーク
2三	アンケートをとる対象と質問内容、その質問についての回答を基にした内容載せることで興味をもってもらえたと考えた理由を書く	57.7	68.8	-11.1
4三	事前に確かめておきたいことについて相手に失礼のないように書く	65.6	71.9	-6.3

設問の趣旨

必要な情報を集めるための見通しについて書くことができるかどうかをみる。

伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書くことができるかどうかをみる。

中学校（2年）数学の傾向

理由や事柄を説明することに課題がある。



皆さんの学校ではどのような課題が見られますか？

	問題の概要	正答率(%)		
		県全体 (自校採点)	全国 (公立)	ベンチマーク
8(2)	四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和はいつでも4の倍数になることの説明を完成する	32.6	61.8	-29.2
8(3)	四角で4つの数を囲むとき、四角で囲んだ4つの数の和がどの位置にある2つの数の和の2倍であるかを説明する	22.6	30.3	-7.7

設問の趣旨

目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる。

数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することができるかどうかをみる。



両教科で、根拠等を基に、自分の考えを表現することに課題があると言えます。他学年や他教科でも、同様の傾向は見られませんか？

県調査では、国語の書くことの設問で、小・中学校ともに約2割の児童生徒が無解答でした。無解答率も気になりますね。



年度内につまずきを解消するための取組（中2国語の例）

定着が不十分な場合

授業改善

宿題

テスト等で確認

補充学習

目的・意図の把握 → 必要な情報を集める

自分の考えをまとめ、表現する場面の設定

授業とつながる課題の設定



社会生活に関わることについて、集めた情報を根拠にして自分の考えや意見を書く学習活動を取り入れてみるか。



授業内容とつなげて、社会生活に必要な手紙や電子メールを書くなどの課題を設定してみようか。

10年後、生活を支援するロボットの開発はどのくらい進んでいるのだろうか。

地元の大学や工業高校の先生等に手紙や電子メールで質問しよう。



高齢者が買い物や病院に行くのに不便を感じている現状があることが分かったから、自動運転の車が増えるかも。

集めた情報を理由や根拠にした上で、考えをまとめて、グループ内で自分の意見を言ってください。



相手に分かりやすく伝えるために、説明や具体例を入れて書いてみよう。また、相手に失礼のないように、書き表し方を工夫してみよう。



高齢者が増え、買い物や病院に行くのに不便を感じているため、自動運転の車が街を走っていると思います。

児童生徒が自らの学びをアウトプットする場面を設定することで、今年度中に身に付けさせたい力の定着状況を把握することができます。例えば、児童生徒にノートや端末等の学習の足跡を用いて、学習内容や課題を確認させたり、学年末（単元）テストで記述式の問題に取り組みせたりすることなどが考えられます。年度末のこの時期に、学校全体で話し合い、児童生徒のつまずき解消に取り組んでみませんか。

